



## バカになれ！自分の想いを貫き通せ！！

◇今回は、宮本和洋さん（東工大大学院修了、電子部品メーカー勤務）のレポートです！

こんにちは。2012年に岐阜県立関高等学校を卒業しました宮本和洋と申します。2019年3月に東京工業大学(物質理工学院応用化学系、同志社大学理工学部機能分子・生命化学科卒業)を修了予定とし、4月からは電子部品の手メーカーに勤めていることが決まっています。まだ修士2年生であり会社の話はできませんが、浪人時の話、大学生活、学部と大学院をかえた話、そして研究生活についてお話ししたいと思います。皆様の今後の未来について参考になれば幸いです。

### ・略歴

私は、卒業後一年間浪人の期間を経て、同志社大学理工学部機能分子・生命化学科に入学しました。そして、他大学院を受験し、今現在は東京工業大学物質理工学院応用化学系に入学し、今現在修士課程2年生になります。大学と大学院で異なる研究分野になりますが、電気化学(大学では無機電気化学、大学院では有機電気化学)を専攻とし研究をしています。

### ・初心貫徹

教育実習にて初心貫徹をモットーにしていることをお話ししました(担当クラスが文系特進クラスであったため、初志貫徹の間違いでとは突っ込まれると思いました(笑))。この記事を通して一番お伝えしたいことは、最初に思ったことや感じたことなどが志に変わるほど努力をしてほしいということです。なんでもよいので、最後まで貫き通すことが大切だと思います。

関高校は特に、スポーツができる人は成績も良い傾向にあるかと思います。これはおそらく、スポーツで培った情熱が勉強にも活かしていることを示唆していることに思えます。例えば、諦めたくない人は勉強も中途半端にしない人が多いように感じます。

### ・浪人生活と大学生活

浪人時代はJR岐阜駅の近くにある河合塾岐阜校に通っていました。高校時代は水泳部に所属しており部長も務めていたこともあり、水泳のことばかり考えていた水泳バカでした。そのおかげで目標であった東海大会の出場を果たすことができました。したがって、浪人しようと思った時には、水泳の次は勉強一筋に頑張ろうと決心しました。結果としては、様々な大学には合格してその中でも同志社大学を選択し進学することを決めました。これらの過程の中に勉強することはもちろんですが、様々な出会いがありました。当時の仲間とは今も連絡を取っており、写真は大学時代に有馬温泉に行った時の写真になります。勉強に関して、共に鎬を削ってきた仲間ともあり今でも交流があります。(このメンバーの出身校は、慶応義塾大学、大阪大学、岐阜薬科大学、名古屋工業大学で全国バラバラに散らばりました。)

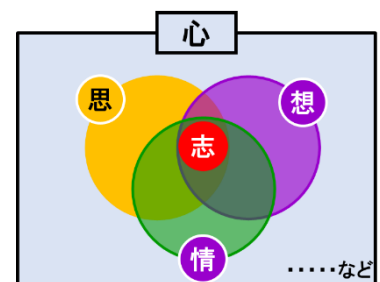


図1 志の位置

また、大学に入学してからも様々な出会いがありました。同じ予備校だった子が学生番号が一つ違いで水泳をやっていたこともあり水泳サークルに所属したり、アルバイトであったり研究室の先輩方や同期であったりと、出会いに溢れていると思います。その中で、自分にない価値観に触れることもあり、様々な刺激を受けて自分を好きなように成長できる大事な期間でもあると思います。大学はとても自由で一つのことに集中することもよし、迷いながら様々なことにかかわってみるのもよし、自分の考えを貫き通して努力することが大切だと思います。



図2 浪人時代の仲間

### ・研究室生活(同志社大学&東京工業大学)

大学によりませんが、三年生の秋学期もしくは四年生に研究室に配属され、自分のテーマを研究していきます。それまでの座学での授業とは一変し、自分で考えて自発的に進めていくことになります。行動ももちろん変わりますが、生活も大きく変わります。研究室に所属するまでは授業と課題のみの生活でしたが、一方で所属後は朝から夜まで研究し(日を跨いだり、研究室に泊まることもあります)、そして個人の努力が研究結果に大きな差が生まれます。



図3 学部時代の研究室の仲間

もちろん、個人の能力も評価の一つにはなりますが、実験のデータ量がものをいう世界になるため、能力よりも研究量が評価の比重が重くなります。ただし、闇雲に研究すれば良いというわけではなく、実験結果に対し考察し、そこから生み出される考えをもとにつぎの実験に移るサイクルを何回も繰り返します。これは、スポーツや部活と同じで、練習メニューはほぼ同じで繰り返すことに似ています。また、同じメニューをしているはずなのに差が生じているところも似ているように感じます。



図4 大学院時代の学会発表

特に私が重視したことは、気になったことは取り敢えず手を動かして実験をし、データにすることです。

研究の世界は、考えてもわからないことがたくさんあります。したがって、やったもの勝ちの世界になり、やらないことは勿体ないことになります。世に言われているPDCAサイクルも、研究を進める上で重要な考え方ですが、このサイクルの終わりはどこかと聞かれたら、「自分が満足したとき」もしくは

「タイムオーバーのとき」と私は答えます。時間まで最後まで諦めずに徹底的にやることを心掛けました。

また、私は大学院で研究室を変えました。様々な理由はありますが、その中で、自分の研究スタイルが通用するのかと挑戦したかったことが挙げられます。学部時代の研究室は厳しいところであったため、外部の院に対する試験勉強の時間はほぼありませんでした。時間を見つけてはテスト勉強の日々でした。外部への院へ進むことを決めたのも遅かったこともあり、正直合格すると思っていませんでした（後日談にはなりますが、同じ研究室の同期は一ヶ月以上の試験勉強時間は貰っていたそうです）。実際に試験をすると、1年生や2年生の時に学んだことから出題されており、学部で真剣に勉強した甲斐があったと実感した時でした。そして、現在は研究分野を変えて研究していますが、学部で培った力が通用し、様々な方から高い評価をしてくださり、一年で三回ほど学会に参加しました。今年で学生生活が終わりますが最後まで努力していく所存です。

### ・志への努力の本質

これまでに様々な経験をする中で、徹底的にやり込むことや努力することが重要だと主張してきました。先ほど関高校はスポーツができる人は勉強もできる人が多いと言いましたが、これは努力していく中で自然とPDCAサイクルが身につくようになっており、それが勉強に活かしているからだと思っています。そして、これらの土台になっているのは、気持ちだと思います。強い意志があるからこそ長い間努力し続けることができるのではないかと考えています。

### ・最後に

部活にしろ勉強にしろ、「やるか、やらないか」の二択だと思います。いったんやると決めたら徹底的にやり込むことが重要だと思います。そうすることで、今後様々な岐路に立つと思いますが自分が決めた道が正しかったと思うようになって考えています。また、その時々にはしかできないことに一生懸命取り組んでください。私の場合では関高校でしかできなかったことや同志社大学や東京工業大学だからこそできたことをやってきたからこそ今の自分があると思っています。諦めずに自分の想いを貫き通して志になるように頑張ってください。